1 鈴鹿郡の定義について

本書において「鈴鹿郡」とは、1935年(昭和10年)当時の郡域をいう。 鈴鹿郡は、現在、三重県亀山市、鈴鹿市、四日市市等の一部となっている。

2 調査について

(1)調査期間

2008年7月から2011年1月

(2)調査内容

天候等の昔の呼び方 (別紙1 調査票 参照)

日時の昔の呼び方

天候、作柄、地震に関する伝承・諺(ことわざ)

天候等にまつわる事項 その他の伝承・諺等

本調査は、被聴き取り者が当時に使った言葉としてではなく、その父母又は祖父母等が当時に話した呼び方や伝承等の聴き取りの面が強い。

(3)調查対象年代

1935年(昭和10年)前後(以下「当時」という。)

(4) 調査対象集落(別紙2 調査集落 参照)

郡内において当時以前からある 69 集落 (当時の旧制町村単位で区分し、隣接する集落は合わせた場合がある。) とともに、隣接する 14 集落を含め調査対象とした。

鈴鹿郡

加太村(3)、坂下村(3)、関町(3)、白川村(4)、神辺村(6)、亀山町(9)、昼生村(3)、井田川村(5)、国府村(4)、牧田村(2)、庄野村(2)、高津頼村(3)、石薬師村(3)、川崎村(3)、野登村(3)、庄内村(2)、深伊沢村(3)、椿村(5)、久間田村(3)

隣接地域

河芸郡 明村(5)、高野尾村(1)、合川村(1) 天名村(1)、河曲村(1)

三重郡 小山田村(1)、水沢村(1)

甲賀郡 山内村(2)

阿山郡 東柘植村(1) 当時の旧制町村により区分、() は調査集落数

(5)調査対象者及び被聴き取り者数

調査対象者は、当該集落で生まれ育ちの80歳代を中心とした高齢者 被聴き取り者数は、合計約350名(隣接地域を含む。)

(6)調査方法

対面聴き取りによる調査

ア 天候等及び日時の昔の呼び方の調査

調査票により聴き取りを実施

イ 天候、作柄、地震等に関する伝承・諺等の調査

調査で採録した伝承・諺をその都度リストに加え、それにより聴き取りを実施

各集落複数名からの聴き取り

調査の正確性を高めるため、各集落複数名から聴き取りを実施

- 2 段階での調査
- ・ 第一次調査 複数名から聴き取りを行い、すべての集落を調査
- ・ 第二次調査 第一次調査終了後、集落間における呼び方の分布の不整合等について各集落 1~2名から再聴き取りを実施

別紙1 調査票(A4版)及び記入上の説明

地区番号、【】は調査票―連番号

天候等の昔の呼び方に関する調査票(鈴鹿

	調査年月日	自田は	査地区	(旧町村名	٠ ۲١	<u> </u>	調査番号
	<u> </u>	叩儿		Truchm11)]		
	聴き取り日(期間)		$\overline{}$	生技で	*の呼び方		
分類	名 称	J	\neq	から	しつず丁しつり」		
太陽	太陽(一般)		=			1	
\\P30	<u>へ</u> 帰し 及り 夕方の太陽		調査地	区名、 ()内は調		
	夕焼け		! 查対象	年代当時の	旧制町村名		調査集落名
]	
風	東風						
	冬の一般			・ナガセ(ン) = 「ナガイ	セ」、「ナガセ)	ン」を意味する。
	北西特に強風			・調査対象	について複数の	の呼び名がある	る場合、主たる呼
	季 節 雪を伴う風			び名を先	(左側)に記述	(一部の調査	対象のみ)。また、[]
	風との他の風				-	-	えられた呼び方に
	つむじかぜ						
	台風 (通過後の風)					Λπ 徑 小9(Ξ	主)や(少)等を
雨と光	長雨 春 - 梅雨 - 利	(.,/		場合がある。		.
	晩秋 夏の断続的な雨	/		・1 枚の調	査票に記載の	复数の集落で、	聴き取り結果がし
	愛の風感がる雨 彼岸の雨			同じ場合	は、記入欄ので	ひとまとめと	した場合がある。
	一時的						
	な雨 朝 - 秋冬						
	日照雨						
	雷一般 (子供向)		集落では	布引山地を	を含む		
				11-31-1-01			
氷、霜等	氷柱 一般		/				
	複数						
	池等に張った氷						[]
	霜柱	_//	参	考調査(地区	区単位での調査	1)	
	霜や霜柱の早融け			天体(月	・星) (次の通り一部	『を略称で表記)
山、川等	鈴鹿山脈			北七:	北斗七星、	カシ:カシオ	ペア座
	(地域の川(鈴鹿川等	<u>))</u>		雲			-
	天気判断 晴・雨 の山等 夕立・雷			雪類			<u> </u>
	00円号 フユ・田 雨乞いをした所	/۔			1 Z)		
	湧水			霧(が出			<u></u>
その他	夏至	+///		地震(か	(米る)		H
	 						
L							
天体()]·星): 有: 、	金星: 、流れ星: 、		北十.	・・カシ・	. ₹ のft	b ·
雲:	3 1, 73.	<u> </u>	<u> </u>	\ 100		()	.
雪類:							
霧(がと	出る):	地震(が来る):					
_		ような ような					
	1						
	等にまつわる	事以					

集落名	回答者氏名(生年)	回答者氏名(生年)	回答者氏名(生年)	回答者氏名(生年)

別紙2 調査集落(1935年(昭和10年)当時の旧制町村別)

鈴鹿郡

旧制	町村	
町村名	番号	調査集落 < 番号は集落番号>
加太村	1	亀山市上加太、 下加太、 関町越川
坂下村	2	亀山市関町坂下、 関町沓掛、 関町市瀬
쀍町	3	亀山市関町久我、 関町古厩、 関町中心街
白川村	4	亀山市関町鷲山、 関町白木一色、 白木町、 小川町
神辺村	5	亀山市関町会下、 小野町・関町小野、 木下町、 山下町、 太岡寺町、 布気町
亀山町	6	亀山市住山町、 羽若町・亀田町、 椿世町、 野村・南野町、 亀山市中心街、
		和賀町・天神、阿野田町、菅内町・樺野、安知本町・田茂町
昼生村	7	亀山市三寺町、中庄町、下庄町
井田川村	8	亀山市井尻町・小下町、 栄町・和田町・川合町、 亀山市井田川町・鈴鹿市小田町、
		鈴鹿市和泉町、西冨田町・中冨田町
国府村	9	鈴鹿市八野町、 国府町、 住吉、 平野町
牧田村	10	鈴鹿市平田・弓削・岡田、甲斐町
庄野村	11	鈴鹿市汲川原町、 庄野町
高津瀬村	12	鈴鹿市広瀬町、 津賀町、 高塚町・加佐登
石薬師村	13	鈴鹿市上田町、 上野町、 石薬師町
川崎村	14	亀山市田村町・長明寺町、 川崎町、 太森町
野登村	15	亀山市辺法寺町、 両尾町、 安坂山町
庄内村	16	鈴鹿市東庄内町、 西庄内町
深伊沢村	17	鈴鹿市深静丁、 伊船町(伊船野田・伊船新田) 伊船町・長沢町
椿村	18	鈴鹿市小岐須町、 小社町、 山本町、 大久保町、 四日市市水沢野田町
久間田村	19	鈴鹿市岸田町・四日市市和無田町 四日市市鹿間町・鈴鹿市下大久保町、 四日市
		市南小松町
計		19 町村 69 集落

隣接地域

	旧制	町村	
区分(郡)	町村名	番号	調査集落 < 番号は集落番号>
河芸郡	明村	隣1	亀山市関町福徳、 関町萩原、 津市芸濃町楠原、 芸濃町林(川原)
			亀山市楠平尾町
"	高野尾村	隣2	津市高野尾町
"	合川村	隣3	鈴鹿市三宅町
"	天名村	隣4	鈴鹿市御薗町
"	河曲村	隣5	鈴鹿市木田町
三重郡	小山田村	隣6	四日市市山田町
"	水沢村	隣7	四日市市水沢町
甲賀郡	山内村	隣8	甲賀市土山町山女原、土山町山中
阿山郡	東柘植村	隣9	伊賀市柘植町
計			9村 14集落

別紙3 天候等の昔の呼び方に係る第二次調査の主な視点及び調査票記入上の整理事項

第二次調査の主な視点

分類	名 称	第二次調査の主な視点 (「 」は呼び方)
太陽	太陽(一般)	「ニチリンサン」の分布、使用頻度。主たる呼び方
	夕方の太陽	「サンダワラ」の分布
	夕焼け	「アカネホス」の分布
	日差し	「オテリサン」の分布
風	東風	「オキカゼ」、「ナミカゼ」、「ウラカゼ」等の分布。主たる呼び方
	冬の北西季節風	山名等に関係したオロシの有無「カラカンジ」、「ゴウシュウカゼ」「タムラカゼ」
		の分布
	つむじかぜ	「マワシカゼ」等の分布。主たる呼び方
	台風 (通過後の風)	
雨と光	長雨 春 - 梅雨 - 秋	
	晩秋	「バンシュウヅユ」等の有無
	夏の断続的な雨	「ドヨウナガセ」、「ボンナガセ」の有無
	彼岸の雨	「ヒガンブリ」等の分布
	一時的一般	「ハヤテ」の分布
	な雨 朝 - 秋冬	「アサダチ」、「アサユウダチ」の分布
	日照雨	
	雷 一般 (子供向け)	
	稲光	主たる呼び方
氷、霜等	氷柱(つらら)	一般:「カナンボ」 複数:「ツヅラ」の分布
	池等に張った氷	
	霜柱 	「イテバシラ」の分布。主たる呼び名
	霜や霜柱の早融け	
山、川等	鈴鹿山脈	「ニシノヤマ」以外の呼び方の有無
	(地域の川(鈴鹿川等))	
	天気判断の山等	
	雨乞いをした所	
ti	湧水	「ショウズ」、「デスイ」等の分布。主たる呼び方
その他	夏至	「セツノチュウニチサン」、「チュウ」の分布
	土用	

調査票記入上の整理事項

次のような、試験調査又は本調査の結果から全集落(又は、全地区)で確認した呼び方や現在一般的な呼び方は、調査票スペースの都合上記入を省略したり、調査対象としなかった場合がある。

区分	調査項目	呼び方
調査事項	夕方の太陽	ユウヒ(:夕日) 【全集落確認・記入省略】
	夕焼け	ユウヤケ (:夕焼け) 【全集落確認・記入省略】
	日差し	ヒザシ 【一般的な言葉であり調査対象とせず】
	風	ヒガシカゼ(:東風) ニシカゼ(:西風) ミナミカゼ(:南風) キタカゼ(:北風) 【漢
		字から来る言葉であり調査対象とせず】
	長雨	3月~4月://ルサメ(:春雨) 【一般的な言葉であり調査対象とせず】
	一時的な雨	ニワカアメ(:にわか雨) ユウダチ (:夕立)【全集落確認・記入省略】
	土用	ドヨウノイリ(:土用の入り) 【全集落確認・記入省略】
	夜	ヨル 【一般的な言葉であり調査対象とせず】
参考調査	天体(月・星)	星 (総称): ホシ、ホシサン、オホシサン (:お星さん) 銀河: アマノガワ、アマノカワ
事項		(:天の川) 月:オツキサン、オッツキサン、ツキ(:お月さん) 金星・その他:イチバ
		ンボシ(:一番星) こと座べガ:オリヒメ(:織姫) わし座アルタイル:ヒコボシ(:ひ
		こ星) 【全地区確認・記入省略】
	雲	イワシグモ(:鰯雲) ウロコグモ(:鱗雲) アマグモ(:雨雲) ユキグモ(:雪雲) ニュ
		ウドウグモ(:入道雲) カミナリグモ(:雷雲) ユウダチグモ(:夕立雲) ユウヤケグモ
		(:夕焼雲)【全地区確認・記入省略】
		クダリグモ(:下り雲) ノボリグモ(:上り雲)【県内全地区確認・記入省略】
	雪類	コナユキ(:粉雪) ボタンユキ(:牡丹雪) ミゾレ(:霙) アラレ(:霰) ヒョウ(:雹)
		【全地区確認・記入省略】

3 鈴鹿郡について

(1)鈴鹿郡の概況

1935 年当時の鈴鹿郡は、三重県北部に位置し、滋賀県との県境をなす鈴鹿山脈の南部から伊勢湾に向い東に開けた伊勢平野の一部からなる地域であった。

当時の鈴鹿郡は19町村からなり、現在では 亀山市(大部分)鈴鹿市(中・北西部)四日 市市(南部)また、伊賀市(一ツ家)の一部 となっている。

1942年に国府村、牧田村等14町村(河芸郡町村を含む。)が合併し鈴鹿市に、1954年には亀山町、昼生村等5町村が合併し亀山市となるとともに、翌1955年には関町、加太村及び坂下村の3町村が合併し、関町となった。こうした核となる合併に続き、合併せず残った地域の亀山市、鈴鹿市、四日市市への編入等が行われるとともに、1956年には鈴鹿郡関町大字加太一ツ家(面積:0.2k㎡)は分水界を越えて阿



山郡柘植町に編入された。そして、2005年1月には亀山市と関町が合併し現在の亀山市となり、「鈴鹿郡」はなくなった。

時代を遡り江戸時代の幕藩体制下にあっては、当時の亀山藩が鈴鹿川流域の大部分を藩領としていたことから、鈴鹿郡は亀山藩領と重なる部分が多く、異なるのは津藩領であった郡南西部に位置する加太地区から関町古厩にかけて、また、久居藩領であった郡南東部に位置する安知本町から下庄町にかけての地域等であった。

主要な街道としては、鈴鹿川沿いに郡内を東西に横断する東海道が整備され、昔より人の往来の中心的な役割を果たした。

郡内を流れる主な河川としては、鈴鹿山脈南部に位置する高畑山(標高 773m)を水源とし東流し、伊勢湾に注ぐ鈴鹿川(1級河川、幹線流路延長約 38km)と、その南にあり同様に東流し伊勢湾に注ぐ中ノ川(2級河川、同約 21km) がある。

